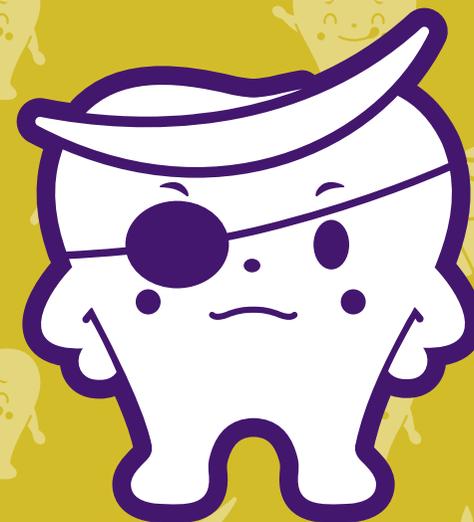




仙台市
歯と口の健康づくり計画

第3期アクションプラン



仙台市・歯と口の健康づくり計画（第3期）アクションプラン

もくじ

仙台市・歯と口の健康づくり計画（第3期）及びアクションプランについて	1
------------------------------------	---

計画の基本

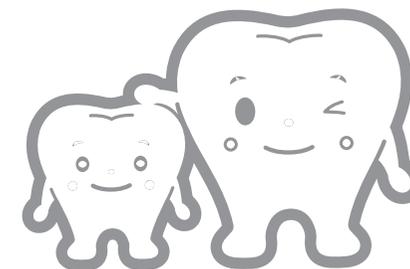
1 コンセプトと基本目標	2
2 歯と口の健康づくり推進の体系図	3

施策と目標

1. ライフステージごとの特性・個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進	
妊 娠 期（胎 児 期）	4
乳幼児期（0～3歳）	5
幼 児 期（4～5歳）	6
学 齢 期（6～17歳）	7
青 年 期（18～39歳）	9
壮 年 期（40～64歳）	10
高 齢 期（65～74歳）	11
高 齢 期（75歳以上）	12
2. 多様な担い手の連携による、歯と口の健康づくりを支える社会環境整備	
エビデンスに基づくむし歯予防対策を推進する環境整備	13
かかりつけ歯科医機能を推進する環境整備	14
医科歯科を軸に多職種連携を推進する環境整備	15
配慮を必要とする人を地域連携で支える環境整備	16
3. 歯と口の健康づくりに係る情報管理体制の整備とネットワークの強化	
適切な歯科保健情報にアクセスできる体制の構築	17
大規模災害時における歯科保健提供体制の構築	18
4. 指標一覧	19

計画の推進体制

1 各主体の取り組み	21
2 計画の推進体制	23



仙台市・歯と口の健康づくり計画（第3期）及びアクションプランについて

1 仙台市・歯と口の健康づくり計画（第3期）策定の背景と位置づけ

- ◎ 仙台市においては、健康づくり基本計画「いきいき市民健康プラン（平成14年3月）」の重点戦略の一つとして「歯と口の健康づくり」を位置づけ、保健医療・教育・福祉・職域・学識等の関係団体等で構成する「仙台市歯と口の健康づくりネットワーク会議（平成15年設置）」を取り組みの推進母体として、乳幼児期から高齢期にわたる生涯を通じた歯科保健施策を展開してきました。この計画の最終評価では、歯科保健分野は改善を示す指標が多く、着実な成果が認められた一方で、歯と口の健康に関する地域差や個人差に係る課題も明らかになりました。そのため、「第2期いきいき市民健康プラン（平成23年3月）」においても「生きる力を支える歯と口の健康づくり」を重点分野に掲げ、関係主体との連携による施策を体系的・総合的に推進するため、「仙台市・歯と口の健康づくり計画」及び「同計画アクションプラン」を策定し、実践的な取り組みを行ってきました。当初計画及び第2期計画の取り組みの成果や課題を受け継ぎ、令和5年10月に告示された、国の「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項（第二次）（以下「基本的事項」という）」を踏まえながら、今般、「仙台市・歯と口の健康づくり計画（第3期）」を策定しました。
- ◎ 本計画は、「仙台市いきいき市民健康プラン（第3期）」の施策の分野の一つである「歯と口の健康」を推進するための個別計画とし、また、基本的事項に規定される市町村計画として位置づけます。さらに、今後の新たな課題や環境の変化にも対応できるように「食育推進計画」「すこやか子育てプラン」「健やかな体の育成プラン」「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」「医療政策基本方針」「障害者保健福祉計画」等の関連計画との連携を十分に考慮の上、柔軟に計画を推進していきます。

2 計画のスケジュールと評価

仙台市いきいき市民健康プラン（第3期）の計画期間と合わせ、令和6年度から令和17年度までの12年間とし、令和12年度に中間見直しを行うこととします。

R5年度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
計画作成	ベースライン設定	計画期間					各種歯科保健調査	中間評価		目標年度	各種歯科保健調査	最終評価	次期計画作成	

3 計画の対象

各世代の歯科的特徴や、現状と課題を踏まえ、「妊娠期（胎児期）」「乳幼児期（0-5歳）」「学齢期（6-17歳）」「青年期（18-39歳）」「壮年期（40-64歳）」「高齢期（65歳以上）」の6つのライフステージに対応する、関係主体の役割を明確にした上で、相互に連携を深めながら取り組みを進めるとともに、ライフコースに沿った歯と口の健康づくりを展開できる環境整備を図り、総合的・計画的に施策を推進します。



4 アクションプランの構成と基本的な考え方について

本アクションプランは計画の基本目標の達成に向けて、推進の視点ごとに「現状と課題」「取り組みの方向性」を明確にし、令和6～12年度までの具体策を年度毎に掲載しています。また、アクションプランにおいては、ライフステージの「乳幼児期」と「高齢期」は前期と後期に分け、8つのライフステージとしています。更に「学齢期」においては健康課題が大きいことから「むし歯予防」と「歯肉炎予防」に分けて、そのロードマップを作成しています。それぞれの取り組み状況については、毎年度、「仙台市歯と口の健康づくりネットワーク会議」において把握、評価しながら次の取り組みの検討を行い、実行に移します。

1 コンセプトと基本目標

人生100年時代に本格的に突入する中で、生涯にわたり歯と口の健康を保つことは「食べる・話す・笑う」といった日々の生活の基本となり、誰もが心豊かに健康的な生活を送るための基盤となるものであることを踏まえ、本計画のコンセプトと基本目標を以下のとおりとします。

【コンセプト】

健やかならだところを支える 歯と口の健康

【基本目標】

**すべての市民が健康で質の高い生活を営む基盤となる
歯と口の健康の実現**

【推進の視点】

本計画では、推進の視点として以下の3点を定め、「市民のめざす姿（アウトカム）」の実現を図ります。

視点1 ライフステージごとの特性・個人のライフコース*に沿った歯と口の健康づくりの推進

各種取り組みを継続的・一体的に推進するために、ライフステージごとの特性を踏まえるとともに、個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進に取り組みます。

視点2 多様な担い手の連携による歯と口の健康づくりを支える社会環境整備

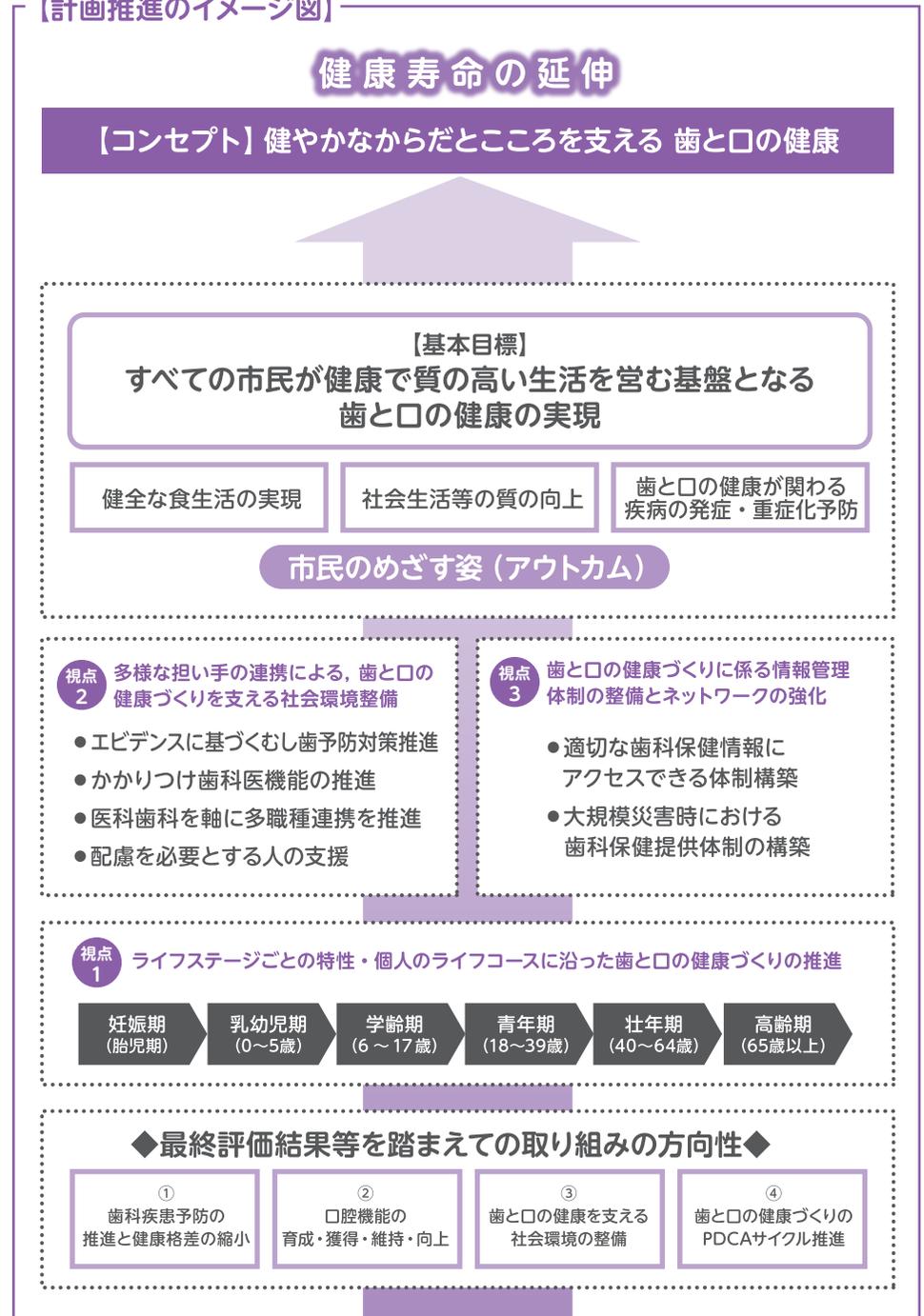
市民一人ひとりが歯と口の健康づくりの重要性を認識し、生涯にわたり歯と口の健康づくりに取り組むことに加え、かかりつけ歯科医、保育所・幼稚園・認定こども園、学校・学校歯科医、保険者・事業者、民生委員・児童委員、医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、歯科衛生士会、歯科技工士会、看護・介護職関係団体、大学、仙台市を含めた社会全体が連携・協力して、市民の歯と口の健康づくりを支援する活動を行います。

視点3 歯と口の健康づくりに係る情報管理体制の整備とネットワークの強化

歯と口の健康づくりに関する情報を充実させ、関係者との共有化・一元化に努めるとともに、歯科健診情報をはじめとする、自分自身の健康づくりに活用できる情報管理体制の構築を図ります。

*ライフコースアプローチの視点：妊娠期（胎児期）から高齢期に至るまで、生涯を通じて連続的、一体的な歯と口の健康づくりを推進していきます。

【計画推進のイメージ図】



2 歯と口の健康づくり推進の体系図

取り組みの方向性

歯科疾患予防の
推進と
健康格差の縮小

口腔機能の
育成・獲得
維持・向上

歯と口の健康を
支える
社会環境の整備

歯と口の
健康づくりの
PDCAサイクル推進

推進の視点

ライフステージごとの
特性・個人のライフコースに沿った
歯と口の健康づくりの推進

多様な担い手の連携による
歯と口の健康づくりを支える社会環境整備

歯と口の健康づくりに係る
情報管理体制の整備とネットワークの強化

市民のめざす姿

セルフケアを実践し生活習慣の改善を図る

- ・生涯を通じてフッ化物配合歯磨剤等やフッ化物洗口を利用する
- ・生涯を通じて甘味飲料、甘味食品の習慣的な飲食を控える
- ・よく噛むことの大切さを理解し、発達や口の機能に応じた食事を工夫する
- ・乳幼児期の口の機能を育てることの大切さを理解する
- ・幼児期、学齢期における口呼吸等の習癖が口腔機能の発達に影響があることを理解する
- ・デンタルフロス等の歯間清掃用具の使用法を習得し習慣的に使用する
- ・壮年期以降の口腔機能の低下が身体機能にも影響を与えることを理解する

歯科疾患の発症予防・重症化予防に取り組む

- ・フッ化物歯面塗布やシーラント処置等、むし歯予防の継続管理を受ける
- ・定期的な歯石除去やライフスタイルに応じた保健指導を受ける
- ・保育、教育施設で行われているフッ化物洗口に取り組む
- ・学校歯科健康診断を通して、むし歯や歯肉炎のリスクと予防法を学ぶ
- ・職場における健康診断を通じて、生活習慣病と歯周病との関連性や予防法を理解する
- ・喫煙による歯周病や口腔がんへの影響を理解し、禁煙に取り組む
- ・障害がある方も身近な地域の医療機関で歯と口の健康について相談できる
- ・通院が困難な方が在宅で、必要な医療とともに定期健診や口腔ケアを受ける

歯と口の健康づくりとともに全身の健康増進に努める

- ・すべての人が正しい歯科保健情報を十分に収集し活用できる
- ・自分自身の歯科健診結果の情報を健康づくりに活用する
- ・大規模災害時の歯みがき、義歯洗浄など口腔ケアの重要性を理解する
- ・災害時の備えとして、歯ブラシや液体歯みがき等の口腔ケア用品を準備している
- ・正しい知識を持ち、健康的な生活習慣や歯科保健行動を身につける

基本目標

すべての市民が健康で質の高い生活を営む基盤となる
歯と口の健康の実現

1. ライフステージごとの特性・個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進

妊娠期（胎児期）

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ						
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
		妊婦歯科健康診査におけるセルフケア能力向上支援の充実・強化						
<p>◇妊婦歯科健康診査の受診率は4割程度にとどまっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ●妊婦歯科健康診査受診率 46.6% <p>◇妊娠期に増加傾向にある歯周炎やむし歯の発症および重症化予防の対策の強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●進行した歯周炎のある人 58.4% ●未処置歯を有している人 39.7% <p>◇適切なセルフケアの実践支援や間食習慣の改善に向けた保健指導の強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯周病予防に有効なデンタルフロス等を使用している人 54.0% ●甘味飲料・甘味食品をとる習慣のある人 65.1% <p>◇定期的な健康チェックや予防処置を受診する機会の増加を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1年以内に歯石除去を受けた人 50.5% <p style="text-align: right;">R4 妊婦歯科健康診査</p>	<p>◇妊娠期の歯と口の健康が、胎児にも影響を与えることの理解を深め、適切な予防行動の実践を促進</p> <p>◇歯と口のセルフケア能力の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●デンタルフロス実践支援 ●フッ化物配合歯磨剤の効果的な使用の促進 ●間食指導 <p>◇多職種連携のもと「妊娠と歯周病の関係性」や「自身の歯と口を健康に保つことの重要性」等の情報提供の推進を図る</p> <p>◇妊婦のみならず、パートナー等も「かかりつけ歯科医」を持つよう啓発の強化を図る</p> <p>◇かかりつけ歯科医による生涯を通じた歯と口の健康づくりのサポートの強化</p>	<p style="text-align: center;">多職種連携による妊娠期の歯と口の健康づくり推進</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>New! ライフコース</p> <p>◇胎児期からはじめる子どものカリエスフリー支援プロジェクト（R7年度以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多数の未処置歯がある妊婦への多職種連携フォロー体制づくり【妊婦歯科登録医療機関と保健福祉センター（歯科・保健師・栄養士等）による支援のあり方を検討】 </div> <div style="width: 45%;"> <p>New! ライフコース</p> <p>◇産婦人科・歯科・薬局・大学・行政の連携による早産予防対策プロジェクト（R8年度以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●妊婦の歯と口の健康セルフチェックシートを作成その活用と妊婦歯科健康診査の受診勧奨 ●産婦人科、歯科、薬局等に掲示する啓発ポスターの作成 </div> </div> <p style="text-align: center;">かかりつけ歯科医による生涯を通じた歯と口の健康づくりのサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇定期健診と歯石除去、歯面清掃等の予防処置／デンタルフロス等の使用法の習得・習慣化支援 ◇生まれてくる子どもや家族の歯と口の健康づくり支援（パートナーの受診勧奨） 						

指 標

かかりつけ歯科医を持っている妊婦の増加

現況値（R4年度） → 目標値（R14年度）

47.3% → 80%

市民のめざす姿

- 妊婦歯科健康診査を受け、自身の歯と口の状態を把握し、正しいセルフケア方法を学ぶ
- かかりつけ歯科医で定期的に健診や歯石除去等の予防処置を受ける
- デンタルフロス等の正しい使用法を習得し習慣的に使用する
- 甘味飲料や甘味食品の習慣的な飲食を控える

1. ライフステージごとの特性・個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進

乳幼児期（0～3歳）

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ						
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度
		母子保健事業における健康教育・保健指導の充実・強化						
<p>◇乳歯の生え始めから適切なケアを受ける幼児の増加を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フッ化物歯面塗布助成事業を受診する乳幼児 41.4% ●フッ化物歯面塗布助成事業登録歯科医療機関 326件 R4 フッ化物歯面塗布助成事業 	<p>◇生涯を通じた歯と口の健康づくりの基盤形成を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活リズムの確立支援 ●間食指導 ●年齢に応じたフッ化物利用の啓発と実践支援 ●歯口清掃の実践支援 	<p>◇3～4か月児育児教室</p> <p>◇離乳食教室</p> <p>◇8～9か月児乳児健康診査（小児科）</p> <p>◇1歳6か月児健康診査</p> <p>◇2歳6か月児歯科健康診査</p> <p>◇3歳児健康診査</p>		<p>◇フッ化物歯面塗布助成事業（登録歯科医療機関）</p> <p>受診率UP対策：子育てマイプラン、のびすくナビ、せんだい歯と口の健康づくりネット、たのしねっと、SNS等</p>				
<p>◇健康的な食生活や生活習慣に係る保健指導の強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●甘味飲料を飲んでいる幼児 <ul style="list-style-type: none"> 1歳6か月児 11.3% 2歳6か月児 40.4% ●甘味食品を食べている幼児 <ul style="list-style-type: none"> 1歳6か月児 3.5% 2歳6か月児 32.7% R4 幼児歯科健康診査 	<p>◇多職種連携によるむし歯の重症化予防強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幼児健康診査のフォローアップ体制の検討 	<p>◇市民向け啓発媒体（毎年更新）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育てサポートブック「たのしねっと」 ●☆せんだい☆でんたるノートF ●リーフレット「乳幼児期からの歯と口の健康づくり」 ●幼児健康診査指導用各種リーフレット 		<p>◇関係者向けマニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯と口の健康づくりマニュアル ●幼児健康診査の各種手引き ●幼児歯科健康診査マニュアル 				
<p>◇かかりつけ歯科医での予防処置の定期的な受診の啓発強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フッ化物歯面塗布を受けたことがある3歳児 <ul style="list-style-type: none"> 仙台市 65.1% 全 国 36.8% 仙台市：R4 3歳児健康診査 全 国：R4 歯科疾患実態調査 	<p>◇多職種連携による口腔機能の育成の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●噛む力、飲み込む力の育成と獲得支援 ●口腔機能に応じた離乳の進め方支援 ●食べる姿勢や食べさせ方の普及啓発 	多職種連携による乳幼児期の歯と口の健康づくり推進						
		ライフコース		ライフコース				
		<p>◇保健師、栄養士、かかりつけ歯科医等との連携によるむし歯重症化予防対策（R6年度以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幼児健康診査後のむし歯ハイリスク児へのフォロー体制の強化 ●要保護児童対策地域協議会等との連携 		<p>New!</p> <p>◇小児科・歯科・薬局・栄養士・保育所・大学・行政との連携による「(仮)子どもの食べる力のサポートブック」作成（R7年度以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発育や食べる力の発達段階に応じたサポートブックの作成と関係者への研修の場の確保 				
		かかりつけ歯科医による生涯を通じた歯と口の健康づくりのサポート						
		<p>◇定期健診やフッ化物歯面塗布・シーラント処置等の予防処置</p> <p>◇セルフケアのチェック&実践支援</p> <p>◇口腔機能の育成支援</p>		<p>◇保護者と子どものデンタルフロス使用法の習得・習慣化支援</p> <p>◇間食指導</p> <p>◇保護者の禁煙支援</p>				
指 標		現況値（R4年度） → 目標値（R14年度）						
むし歯のない3歳児の増加		90.4% → 95%						
3歳児で4本以上のむし歯のある幼児の減少		3.0% → 0%						
		市民のめざす姿		<ul style="list-style-type: none"> ●乳歯が生え始めたら「☆せんだい☆でんたるノートF」を使って歯と口の成長を記録する ●フッ化物を利用した歯みがきの方法を身につける ●よく噛んで食べることの大切さを知り、口の機能を育てるための食事を工夫する ●甘味飲料や甘味食品の習慣的な飲食を控える ●かかりつけ歯科医で定期的な健診と予防処置を受ける 				

1. ライフステージごとの特性・個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進

学齢期 (6~17歳)

現状と課題【むし歯予防】	取り組みの方向性	ロードマップ																						
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度																
<p>◇むし歯のない生徒は、大都市平均値より低い水準にあるため、地域差を解消する対策を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●むし歯のない12歳児 <table border="1"> <tr> <td>仙台市</td> <td>75.8%</td> </tr> <tr> <td>大都市</td> <td>77.9%</td> </tr> </table> <p>仙台市：R4 学校健康診断結果 大都市：R4 学校保健統計（文部科学省） ※大都市：政令指定都市と特別区</p> <p>◇生活習慣病予防の観点からも食生活改善に向けた取り組みを強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●甘味飲料を週2回以上飲む人 <table border="1"> <tr> <td>小学3年生</td> <td>43.7%</td> </tr> <tr> <td>中学1年生</td> <td>38.3%</td> </tr> <tr> <td>高校3年生</td> <td>33.2%</td> </tr> </table> <p>R3 学校歯科保健関連調査（仙台市）</p> <p>◇未処置のむし歯のある人は、学齢期から年齢とともに増加し、30歳では約半数に上るため、生涯を通じたむし歯予防対策を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●未処置のむし歯がある人 <table border="1"> <tr> <td>12歳</td> <td>11.2%</td> </tr> <tr> <td>20歳</td> <td>33.7%</td> </tr> <tr> <td>30歳</td> <td>42.7%</td> </tr> </table> <p>R4 仙台市各種健診事業</p>	仙台市	75.8%	大都市	77.9%	小学3年生	43.7%	中学1年生	38.3%	高校3年生	33.2%	12歳	11.2%	20歳	33.7%	30歳	42.7%	<p>◇心身ともに健康な児童・生徒の育成を目的とした学校歯科保健教育、保健指導、保健管理の充実を図る</p> <p>◇定期健康診断等の歯科健康診断後の事後指導の充実を図る</p> <p>◇食育推進計画と連動した歯と口の健康づくりの取り組みを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●甘味飲料や甘味食品の習慣的飲食が健康に及ぼす影響についての普及啓発 ●口腔機能（噛む力・飲み込む力）の獲得支援 <p>◇多職種連携による学校保健活動の活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家庭、学校、学校歯科医、地域保健関係者等の多職種連携・協働の推進 ●ポピュレーションアプローチによるフッ化物洗口推進 <p>◇かかりつけ歯科医による定期的な予防管理とセルフケアの実践支援の強化</p>	<p style="text-align: center;">学校歯科保健教育、保健指導、保健管理の充実・強化</p> <p>◇「学齢期の歯と口の健康づくりマニュアル」の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●定期健康診断と事後指導 ●養護教諭や保健主事を対象とした研修 ●歯の衛生モデル校 ●学校歯科医を対象とした研修 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>◇学校で活用できる電子教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学年別授業の事例（小学校、中学校、高等学校） ●歯科健診後の指導事例 ●特別活動等の事例 </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>◇関係者向けマニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯と口の健康づくりマニュアルX ●学齢期の歯と口の健康づくりマニュアル </div> </div> <p style="text-align: center;">多職種連携による学齢期の歯と口の健康づくり推進</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>ライフコース</p> <p>◇学校、保護者、学校歯科医等の連携によるフッ化物洗口パイロット事業の拡大</p> <p>◇学校、保護者、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保健福祉センター等の連携による学校保健委員会の活性化（健康課題や効果的な取り組みの共有）</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: right;"> <p>New!</p> <p>ライフコース</p> <p>◇小児科・歯科・薬局・保育所・大学・行政の連携による「(仮)子どもの食べる力のサポートブック」作成（R7年度以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発育や食べる力の発達段階に応じたサポートブックの作成と関係者への研修の場の確保 </div> </div> <p style="text-align: center;">かかりつけ歯科医による生涯を通じた歯と口の健康づくりサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇定期健診やフッ化物歯面塗布・シーラント処置等の予防処置 ◇セルフケアのチェック&実践支援 ◇口腔機能の育成・獲得支援 ◇保護者と子どものデンタルフロス使用法の習得、習慣化支援 ◇間食指導 ◇保護者の禁煙支援 						
仙台市	75.8%																							
大都市	77.9%																							
小学3年生	43.7%																							
中学1年生	38.3%																							
高校3年生	33.2%																							
12歳	11.2%																							
20歳	33.7%																							
30歳	42.7%																							

指標

現況値 (R4年度) → 目標値 (R14年度)

12歳でむし歯のない生徒の増加

75.8% → 95%

フッ化物洗口に取り組んでいる学校の増加

3校 → 増加

市民の
めざす姿

- 学校健康診断を通してむし歯のリスクと予防法を学ぶ
- フッ化物を利用した歯みがき方法を身につける
- よく噛んで食べることの大切さを知り、口の機能を育てるための食事を工夫する
- 甘味飲料や甘味食品の習慣的飲食を控える
- 学校でフッ化物洗口に取り組んでいる
- かかりつけ歯科医で定期的な健診と予防処置を受ける

1. ライフステージごとの特性・個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進

学齢期 (6~17歳)

現状と課題【歯肉炎予防】	取り組みの方向性	ロードマップ																
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度										
<p>◇歯肉に炎症所見のある生徒は、全国や大都市平均値を上回っている歯肉炎予防に有効なセルフケアの実践支援を図る必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯肉に炎症所見を有する12歳児 <table border="1"> <tr><td>仙台市</td><td>6.4%</td></tr> <tr><td>全国</td><td>3.1%</td></tr> <tr><td>大都市</td><td>3.3%</td></tr> </table> 仙台市：R4 学校健康診断結果 大都市：R4 学校保健統計(文部科学省) ※大都市：政令指定都市と特別区 <p>◇健康診断後のGO、CO保有者への学校での事後措置の徹底を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●CO・GOのある児童・生徒へ保健指導、健康教育をする学校 <table border="1"> <tr><td>小学校</td><td>22.9%</td></tr> <tr><td>中学校</td><td>34.9%</td></tr> </table> ●学校健診で「GやGO」があったかどうかわからないと回答した生徒 <table border="1"> <tr><td>中学1年生</td><td>60.8%</td></tr> </table> <p>◇年1回以上は、歯科医院で健康チェックや保健指導を受けることの啓発を強化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●定期的な歯科受診をしている生徒 <table border="1"> <tr><td>中学1年生</td><td>48.5%</td></tr> <tr><td>高校3年生</td><td>29.7%</td></tr> </table> R3 学校歯科保健関連調査(仙台市) 	仙台市	6.4%	全国	3.1%	大都市	3.3%	小学校	22.9%	中学校	34.9%	中学1年生	60.8%	中学1年生	48.5%	高校3年生	29.7%	<p>◇心身ともに健康な児童・生徒の育成を目的とした学校歯科保健教育、保健指導、保健管理の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学童期からの歯肉炎予防対策の推進 <p>◇定期健康診断等の歯科健康診断事後指導の充実を図る</p> <p>◇多職種連携による学校保健活動の活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家庭、学校、学校歯科医、地域保健関係者等の多職種連携・協働の推進 <p>◇かかりつけ歯科医による定期的な予防管理とセルフケアの実践支援の強化</p> 	<p style="text-align: center;">既存事業における健康教育・保健指導の充実・強化</p> <p>◇「学齢期の歯と口の健康づくりマニュアル」の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●定期健康診断と事後指導 ●養護教諭や保健主事を対象とした研修 ●歯の衛生モデル校 ●学校歯科医を対象とした研修 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>◇学校で活用できる電子教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学年別授業の事例(小学校、中学校、高等学校) ●歯科健診後の指導事例 ●歯周病と全身との関係性に関する健康教育の事例 </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>◇関係者向けマニュアル等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯と口の健康づくりマニュアルX ●学齢期の歯と口の健康づくりマニュアル </div> </div> <p style="text-align: center;">多職種連携による学齢期の歯と口の健康づくり推進</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">ライフコース</p> <p>◇「全国小学生歯みがき大会(日本学校歯科医会、文部科学省等)」への学校の参加を促進し学校、保護者、歯科校医、企業等の連携による歯肉炎予防対策を推進</p> <p>◇生活・学習サポーター(給食サポート等)事業等を活用した「小学校における歯みがき習慣定着」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PTA協議会、食育関係団体、学校歯科医、学校等との連携により、給食後の歯みがき習慣の定着を支援 </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">New!</p> <p style="text-align: center;">ライフコース</p> <p>◇ハローフロスプロジェクトへの高等学校の参加を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校、学校歯科医、歯科医師会、東北大学等との連携により、高校生のデンタルフロスの体験学習をサポート </div> </div> <p style="text-align: center;">ライフコース</p> <p style="text-align: center;">かかりつけ歯科医による生涯を通じた歯と口の健康づくりサポート</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <ul style="list-style-type: none"> ◇定期健診や歯垢除去等の予防処置 ◇セルフケアのチェック&実践支援 ◇デンタルフロス使用法の習得・習慣化支援 ◇間食指導 ◇口腔機能の育成・獲得支援 ◇保護者の禁煙支援 </div>
仙台市	6.4%																	
全国	3.1%																	
大都市	3.3%																	
小学校	22.9%																	
中学校	34.9%																	
中学1年生	60.8%																	
中学1年生	48.5%																	
高校3年生	29.7%																	
<p style="text-align: center;">指 標</p> <p>CO・GOのある児童生徒へ保健指導、健康教育を実施する学校の増加</p> <p>12歳児で歯肉炎のある生徒の減少</p>	<p style="text-align: center;">現況値 (R3・4年度) → 目標値 (R14年度)</p> <p>小学校 22.9% → 100%</p> <p>中学校 34.9% → 100%</p> <p>6.4% → 3%</p>	<p style="text-align: center;">市民のめざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校健康診断を通して歯肉炎のリスクと予防法を学ぶ ●デンタルフロスや歯間ブラシ(歯間清掃用具)の正しい使用法を習得し、習慣的に使用する ●口呼吸等の習癖が口腔機能の発達に影響があることを理解する ●かかりつけ歯科医で定期的な健診と予防処置を受ける 																

1. ライフステージごとの特性・個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進

青年期（18～39歳）

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ						
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度
<p>◇歯周炎を有する人は年齢とともに増加し、全国値より高い</p> <p>仙台市 20歳 34.3% 30歳 52.9%</p> <p>全 国 20～24歳 21.2% 30～34歳 33.3%</p> <p>仙台市：R4 20歳のデンタルケア R4 歯周病検診（30歳） 全 国：R4 歯科疾患実態調査</p>	<p>◇生涯にわたり自分の歯を維持し、健康で豊かな生活を送ることができるよう、むし歯予防と歯周病予防に関する関心を高め、セルフケア知識の普及と実践支援の強化を図る</p> <p>◇歯と口の健康と全身の健康の関係性に関する知識の普及啓発を図る</p>	<p>歯科健康診査におけるセルフケア能力向上支援の充実・強化</p> <p>◇20歳のデンタルケア ライフコース</p> <p>◇歯周病検診（30歳）</p> <p>【受診率UP対策】 ナッジを用いた受診勧奨通知、受診勧奨ハガキ、ポスター、SNS等</p> <p>◇歯周病検診登録歯科医療機関の拡大と研修体制の充実</p> <p>◇市民向け啓発媒体</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リーフレット「いつもさわやかなお口のために」 <ol style="list-style-type: none"> ①歯肉炎の方・健康な方へ ②初期の歯周炎の方へ ③進行した歯周炎の方へ <p>◇関係者向けマニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯と口の健康づくりマニュアルⅧ 成人歯科健診マニュアル（R6～7年改訂） （歯周病検診・20歳のデンタルケア） 						
<p>◇未処置のむし歯のある人は学齢期から年齢とともに増加している</p> <p>12歳 11.2% 20歳 33.7% 30歳 42.7%</p> <p>R4 学校健康診断 R4 20歳のデンタルケア R4 歯周病検診（30歳）</p>	<p>◇大学や専門学校等の高等教育機関との連携により歯周病予防対策の強化を図る</p> <p>◇かかりつけ歯科医による定期的な予防管理とセルフケアの実践支援の強化を図る</p>	<p>多職種連携による青年期の歯と口の健康づくり推進</p> <p>New!</p> <p>◇ハローフロスプロジェクト ライフコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大学生・専門学生が同世代に歯周病予防の必要性を伝え、デンタルフロスの使用を啓発「目指せ！イケてる口元」リーフレットを用いた啓発活動の展開（令和6年度稼働） <p>◇地域、職域における健康教育、健康相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣病予防対策や心の健康づくりと連携した歯周病予防の啓発強化 ●大学や専門学校等における歯周病予防啓発 ●職場における歯科保健活動支援 						
<p>◇甘味飲料・甘味食品を飲食する習慣のある人は約7割に上る</p> <p>20歳 65.7% R4 20歳のデンタルケア</p>		<p>かかりつけ歯科医による生涯を通じた歯と口の健康づくりサポート</p> <p>◇定期健診や歯石除去等の予防処置</p> <p>◇セルフケアのチェック&実践支援</p> <p>◇デンタルフロス使用法の習得・習慣化支援</p> <p>◇禁煙支援</p> <p>◇間食指導</p>						

指 標	現況値 (R3・4年度)	目標値 (R14年度)
20歳で未処置歯がある人の減少	33.7%	→ 20%
20～30歳代で歯肉に炎症所見がある人の減少	38.3%	→ 15%
過去1年間に歯科健診を受診した人の増加（20歳以上）	60.9%	→ 95%

市民の
めざす姿

- デンタルフロス等の正しい使用法を習得し、習慣的に使用する
- フッ化物配合歯磨剤を使った歯みがきを行う
- 甘味飲料や甘味食品の習慣的な飲食を控える
- かかりつけ歯科医で定期的に歯石除去等の予防処置を受ける
- ゆっくりよく噛んで食べることで肥満を予防する

1. ライフステージごとの特性・個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進

壮年期 (40～64歳)

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ																														
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度																								
歯科健康診査におけるセルフケア能力向上支援の充実・強化																																
<p>◇歯周炎を有する人は全国値より高く、5割を超えている</p> <table border="1"> <tr><td>仙台市</td><td>40歳</td><td>55.3%</td></tr> <tr><td></td><td>50歳</td><td>61.7%</td></tr> <tr><td></td><td>60歳</td><td>66.7%</td></tr> <tr><td>全国</td><td>40～44歳</td><td>35.3%</td></tr> <tr><td></td><td>50～54歳</td><td>43.9%</td></tr> <tr><td></td><td>60～64歳</td><td>45.8%</td></tr> </table> <p>仙台市：R4 歯周病検診 全国：R4 歯科疾患実態調査</p> <p>◇デンタルフロスや歯間ブラシの使用率は半数に満たない</p> <table border="1"> <tr><td>40歳</td><td>32.9%</td></tr> <tr><td>50歳</td><td>34.6%</td></tr> <tr><td>60歳</td><td>46.6%</td></tr> </table> <p>R4 歯周病検診</p> <p>◇なんでも噛んで食べることができる人は、加齢とともに減少</p> <table border="1"> <tr><td>40歳代</td><td>85.7%</td></tr> <tr><td>50歳代</td><td>81.7%</td></tr> <tr><td>60歳代</td><td>71.7%</td></tr> </table> <p>R3 仙台市民の健康意識等に関する調査</p>	仙台市	40歳	55.3%		50歳	61.7%		60歳	66.7%	全国	40～44歳	35.3%		50～54歳	43.9%		60～64歳	45.8%	40歳	32.9%	50歳	34.6%	60歳	46.6%	40歳代	85.7%	50歳代	81.7%	60歳代	71.7%	<p>◇生涯にわたり自分の歯を維持し、健康で豊かな生活を送ることができるよう、定期健診と予防処置を受けることの啓発を強化</p> <p>◇歯と口の健康と全身の健康の関係性に関する知識の普及と実践支援の強化を図る</p> <p>◇オーラルフレイルに関する正しい知識と予防法の普及啓発を図り、認知度の向上を図る</p> <p>◇かかりつけ歯科医による定期的な予防管理とセルフケアの実践支援、口腔機能の維持向上の強化を図る</p>	<p style="text-align: center;">ライフコース</p> <p>◇歯周病検診 (40歳, 50歳, 60歳) 【受診率UP対策】 ナッジを用いた受診勧奨通知, ポスター懸垂幕, SNS等</p> <p>◇歯周病検診登録歯科医療機関の拡大と研修体制の充実</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>◇市民向け啓発媒体</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リーフレット「いつもさわやかなお口のために」 <ol style="list-style-type: none"> ①歯肉炎の方・健康な方へ ②初期の歯周炎の方へ ③進行した歯周炎の方へ ●リーフレット「健診結果を健康づくりに活かそう」 </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇関係者向けマニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯と口の健康づくりマニュアルⅧ 成人歯科健診マニュアル (R6～7年改訂) (歯周病検診・20歳のデンタルケア) </div>
仙台市	40歳	55.3%																														
	50歳	61.7%																														
	60歳	66.7%																														
全国	40～44歳	35.3%																														
	50～54歳	43.9%																														
	60～64歳	45.8%																														
40歳	32.9%																															
50歳	34.6%																															
60歳	46.6%																															
40歳代	85.7%																															
50歳代	81.7%																															
60歳代	71.7%																															
多職種連携による壮年期の歯と口の健康づくり推進																																
			<p>◇地域、職域における健康教育、健康相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企業や事業所、職域保健関係者へ「歯と口の健康と全身の健康の関係性」に関する普及啓発 ●口腔機能の維持向上の重要性やオーラルフレイルに関する普及啓発 <p>◇健康経営®を実践する企業や事業所等への啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯科健診実施のメリットやセルフケア実践支援 	<p>◇基礎健康診査、特定健康診査の結果に応じた事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣病と歯科疾患の重症化予防 ●オーラルフレイルとフレイル <p>◇歯周病検診結果に応じた保健指導とセルフケアの実践支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯科疾患の重症化予防、生活習慣病の重症化予防 ●口腔機能の維持・向上の重要性やオーラルフレイル予防の実践支援 																												
かかりつけ歯科医による生涯を通じた歯と口の健康づくりサポート																																
			<p>◇定期健診や歯石除去等の予防処置</p> <p>◇セルフケアのチェック&実践支援</p>	<p>◇デンタルフロス使用法の習得、習慣化支援</p> <p>◇禁煙支援</p> <p>◇間食指導</p> <p>◇口腔機能の維持向上</p>																												



指標	現況値 (R3・4年度)	目標値 (R14年度)
40歳で歯周炎がある人の減少	55.3%	→ 36%
40歳以上で自分の歯が19本以下の人の減少	5.4%	→ 3%
50歳以上の咀嚼良好者の増加	70.2%	→ 80%
60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の増加	88.8%	→ 95%

市民のめざす姿

- デンタルフロス等の正しい使用法を習得し、習慣的に使用する
- かかりつけ歯科医で定期的に歯石除去等の予防処置を受ける
- フッ化物配合歯磨剤を使った歯みがきを行う
- 甘味飲料や甘味食品の習慣的な飲食を控える
- 口腔機能の維持向上に努める

1. ライフステージごとの特性・個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進

高齢期（65～74歳）

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ					各種調査	中間評価																					
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度																					
<p>◇なんでも噛んで食べることができる人は、年代が上がるごとに減少</p> <table border="1"> <tr><td>60歳代</td><td>71.7%</td></tr> <tr><td>70歳代</td><td>66.0%</td></tr> <tr><td>80歳代</td><td>54.9%</td></tr> </table> <p>R3 仙台市民の健康意識等に関する調査</p> <p>◇半年前に比べて固いものが食べにくくなった人は、年代が上がるごとに増加</p> <table border="1"> <tr><td>60歳代</td><td>25.4%</td></tr> <tr><td>70歳代</td><td>29.0%</td></tr> <tr><td>80歳代</td><td>32.3%</td></tr> </table> <p>R3 仙台市民の健康意識等に関する調査</p> <p>◇最近1年間に歯科受診した人は、70歳代をピークに、80歳以上で下がる かかりつけ歯科医がある人も同様の傾向にある</p> <table border="1"> <tr><td>50歳代</td><td>61.2%</td></tr> <tr><td>60歳代</td><td>62.8%</td></tr> <tr><td>70歳代</td><td>73.2%</td></tr> <tr><td>80歳以上</td><td>63.3%</td></tr> </table> <p>R3 仙台市民の健康意識等に関する調査</p>	60歳代	71.7%	70歳代	66.0%	80歳代	54.9%	60歳代	25.4%	70歳代	29.0%	80歳代	32.3%	50歳代	61.2%	60歳代	62.8%	70歳代	73.2%	80歳以上	63.3%	<p>◇生涯にわたり自分の歯を維持し、健康で豊かな生活を送ることができるよう、加齢や全身的な疾患の影響などを踏まえたセルフケアの実践支援や専門的ケアの受診を促進</p> <p>◇歯と口の健康と全身の健康の関係性に関する知識の普及と実践支援の強化を図る</p> <p>◇オーラルフレイルに関する正しい知識と予防の実践支援の強化を図る</p> <p>◇かかりつけ歯科医による定期的な予防管理とセルフケアの実践支援、口腔機能の維持向上の強化を図る</p>	<p>歯科健康診査・介護予防事業におけるセルフケア能力向上支援の充実・強化</p> <p>◇歯周病検診（70歳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯周病検診等の歯科健康診査票改訂（R6～7年） ●歯周病検診等の診査基準改訂（R6～7年） ●歯周病検診等のリーフレット改訂（R6～7年） ●歯周病検診等のシステム改修（R8～9年） <p>New!</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇訪問・通所連動型短期集中予防サービス ◇フレイル予防応援教室 ◇介護予防把握事業 フレイル予防リーフレット送付（70歳） ◇フレイル予防アウトリーチ支援事業 <p>◇歯周病検診登録歯科医療機関の拡大と研修体制の充実</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>◇市民向け啓発媒体</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リーフレット「いつもさわやかなお口のために」 ●リーフレット「健診結果を健康づくりに活かそう」 ●リーフレット「元気なお口ですこやかに生活」 ●リーフレット「めざそう！伊達な健口人」 </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>◇関係者向けマニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯と口の健康づくりマニュアルⅧ 成人歯科健診マニュアル（R6～7年改訂） ●仙台市介護予防口腔機能向上プログラム </div> </div> <p>多職種連携による高齢期の歯と口の健康づくり推進</p> <p>New!</p> <p>◇介護予防教室や地域の活動の場等での ライフコース オーラルフレイル予防に関する普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●口腔機能の維持・向上の重要性やオーラルフレイルに関する普及啓発 ●専門職派遣による普及啓発 <p>◇医科歯科薬科等の連携による普及啓発</p> <p>「歯周病と糖尿病」「口腔機能の低下が健康に及ぼす影響」「骨粗鬆症等の薬と歯と口の健康」「周術期の口腔ケア」</p> <p>◇地域、職域における健康教育、健康相談</p> <p>◇歯周病検診結果に応じた保健指導とセルフケアの実践支援</p> <p>◇基礎健康診査、特定健康診査の結果に応じた事後指導</p> <p>かかりつけ歯科医による生涯を通じた歯と口の健康づくりサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇定期健診や歯石除去等の予防処置 ◇デンタルフロス使用法の習得、習慣化支援 ◇セルフケアのチェック&実践支援 ◇禁煙支援 ◇間食指導 ◇オーラルフレイルチェックとサポート 							
60歳代	71.7%																												
70歳代	66.0%																												
80歳代	54.9%																												
60歳代	25.4%																												
70歳代	29.0%																												
80歳代	32.3%																												
50歳代	61.2%																												
60歳代	62.8%																												
70歳代	73.2%																												
80歳以上	63.3%																												



指標	現況値 (R3年度) → 目標値 (R14年度)
80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の増加	69.3% → 85%
80歳での咀嚼良好者の増加	データなし → 70%

- 市民のめざす姿**
- 歯間ブラシ等を習慣的に使用する
 - かかりつけ歯科医で定期的な歯石除去等の予防処置を受ける
 - 加齢や薬の副作用などによる口腔機能のリスクを知る
 - フッ化物配合歯磨剤を使った歯みがきを行う
 - 甘味飲料や甘味食品の習慣的な飲食を控える
 - 口腔機能の維持・向上に努める

計画の基本

施策と目標

計画の推進体制

1. ライフステージごとの特性・個人のライフコースに沿った歯と口の健康づくりの推進

高齢期（75歳以上）

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ										
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度				
		保健事業・介護予防事業におけるセルフケア能力向上支援の充実・強化										
<p>◇自分の歯が多い人ほど、低栄養リスクが低い傾向にある</p> <ul style="list-style-type: none"> ●過去半年で2～3Kgの体重減少がなかった人(75歳) <table border="1"> <tr> <td>現在歯20本以上</td> <td>76.6%</td> </tr> <tr> <td>19本以下</td> <td>23.3%</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">R4 75歳の歯科健診 (宮城県後期高齢者医療広域連合)</p>	現在歯20本以上	76.6%	19本以下	23.3%	<p>◇生涯にわたり自分の歯を維持し、健康で豊かな生活を送ることができるよう、定期健診と予防処置を受けることの啓発を強化</p>	New !					<p>◇介護予防把握事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フレイル予防リーフレット送付(75歳) ●豊齢力チェックリスト送付(80歳) ●フレイル予防アウトリーチ支援事業 	
現在歯20本以上	76.6%											
19本以下	23.3%											
<p>◇咀嚼機能が低下している人ほど、転倒リスクが高い傾向にある</p> <ul style="list-style-type: none"> ●転倒経験のある人(75歳以上) <table border="1"> <tr> <td>咀嚼機能維持者</td> <td>14.1%</td> </tr> <tr> <td>咀嚼機能低下者</td> <td>21.5%</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">R4 基礎健康診査</p>	咀嚼機能維持者	14.1%	咀嚼機能低下者	21.5%	<p>◇歯と口の健康と全身の健康の関係性に関する知識の普及と実践支援の強化を図る</p>	◇市民向け啓発媒体		◇関係者向けマニュアル				
咀嚼機能維持者	14.1%											
咀嚼機能低下者	21.5%											
		<ul style="list-style-type: none"> ●リーフレット「元気なお口ですこやか生活」 ●リーフレット「健診結果を健康づくりに活かそう」 ●リーフレット「めざそう！伊達な健口人」 		<ul style="list-style-type: none"> ●仙台市介護予防口腔機能向上プログラム 								
<p>◇8020達成者であっても、歯周炎を有する人は約7割に上る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯周炎を有する人 <table border="1"> <tr> <td>8020非達成者</td> <td>68.8%</td> </tr> <tr> <td>8020達成者</td> <td>67.0%</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">R3 8020達成率調査</p>	8020非達成者	68.8%	8020達成者	67.0%	<p>◇オーラルフレイルリスク者等の実態を把握し、重症化予防を推進</p>	多職種連携による高齢期の歯と口の健康づくり推進						
8020非達成者	68.8%											
8020達成者	67.0%											
		New !					ライフコース					
		<p>◇高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●口腔機能の維持向上のポピュレーションアプローチ ●口腔機能低下に係るハイリスクアプローチ 		<p>◇介護予防教室や地域の活動の場等でのオーラルフレイル予防の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●口腔機能の維持・向上の重要性やオーラルフレイルに関する普及啓発 ●専門職派遣による普及啓発 								
		<p>◇基礎健康診査等の結果に応じた事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯科疾患の重症化予防、口腔機能の維持向上 		<p>◇医科歯科薬科等の連携による普及啓発</p> <p>「歯周病と糖尿病」「口腔機能の低下が健康に及ぼす影響」「骨粗鬆症等の薬と歯と口の健康」 「周術期の口腔ケア」「誤嚥性肺炎予防」「認知症と口腔ケア」</p>								
<p>◇8020達成者では咀嚼機能が維持されている人が多い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●半年前より固いものが噛みにくい人 <table border="1"> <tr> <td>8020非達成者</td> <td>39.5%</td> </tr> <tr> <td>8020達成者</td> <td>25.7%</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">R3 8020達成率調査</p>	8020非達成者	39.5%	8020達成者	25.7%	 <p>8020</p>	かかりつけ歯科医による生涯を通じた歯と口の健康づくりサポート						
8020非達成者	39.5%											
8020達成者	25.7%											
		<p>◇定期健診と歯石除去</p>		<p>◇オーラルフレイルチェックとサポート</p>		<p>◇セルフケアのチェック&実践支援</p>						
		<p>◇根面う蝕についての保健指導</p>		<p>◇誤嚥性肺炎の保健指導</p>		<p>◇認知症などの気づきと受診への橋渡し</p>						
指 標		現況値 (R3年度) → 目標値 (R14年度)		<p>市民のめざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ●口腔機能の維持・向上に努める ●必要な歯科治療を受け、口腔機能を回復させる ●歯間ブラシ等を習慣的に使用する ●フッ化物配合歯磨剤を使用する ●かかりつけ歯科医で定期的に歯石除去等の予防処置を受ける ●加齢や薬の副作用などによる口腔機能のリスクを知る 								
80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の増加		69.3% → 85%										
80歳での咀嚼良好者の増加		データなし → 70%										

2. 多様な担い手の連携による歯と口の健康づくりを支える社会環境整備

エビデンスに基づくむし歯予防対策を推進する環境整備

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ																								
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度																		
既存事業における健康教育・保健指導の充実・強化																										
<p>◇多数のむし歯がある幼児や、未処置のむし歯がある生徒が一定数存在し、年齢とともに増加する</p> <ul style="list-style-type: none"> 4本以上のむし歯のある幼児 <table border="1"> <tr><td>3歳児</td><td>3.0%</td></tr> <tr><td>5歳児</td><td>9.1%</td></tr> </table> <p>R4 3歳児健康診査 R5 保育所・幼稚園等歯科健康診査結果集約事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 未処置のむし歯のある人 <table border="1"> <tr><td>12歳</td><td>11.2%</td></tr> <tr><td>20歳</td><td>33.7%</td></tr> <tr><td>30歳</td><td>42.7%</td></tr> </table> <p>R4 学校歯科健康診断 R4 歯周病検診</p> <p>◇市内の保育所・幼稚園等におけるフッ化物洗口の実施率は施設種別により差がある</p> <ul style="list-style-type: none"> フッ化物洗口実施率(施設別) <table border="1"> <tr><td>市立保育所, 市立幼稚園</td><td>100%</td></tr> <tr><td>私立保育所</td><td>55.6%</td></tr> <tr><td>認定こども園</td><td>65.0%</td></tr> <tr><td>私立幼稚園</td><td>27.7%</td></tr> </table> <p>R4 保育所・幼稚園等歯科健康診査結果集約事業</p> <p>◇保育所等でフッ化物洗口を経験した児童の保護者の約9割が、小学校でのフッ化物洗口実施を望んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> フッ化物洗口を希望する児童の保護者 <table border="1"> <tr><td></td><td>97.6%</td></tr> </table> <p>R3 学校歯科保健関連調査</p> <p>◇小学校でのフッ化物洗口実施校</p> <table border="1"> <tr><td>フッ化物洗口パイロット事業</td><td>2校</td></tr> <tr><td>私立小学校</td><td>1校</td></tr> </table> <p>R4 健康政策課調べ</p>	3歳児	3.0%	5歳児	9.1%	12歳	11.2%	20歳	33.7%	30歳	42.7%	市立保育所, 市立幼稚園	100%	私立保育所	55.6%	認定こども園	65.0%	私立幼稚園	27.7%		97.6%	フッ化物洗口パイロット事業	2校	私立小学校	1校	<p>◇科学的根拠に基づいたむし歯予防法として、年齢に応じたフッ化物応用やシーラント処置等の普及啓発を図る</p> <p>◇子どもを取り巻く経済状況や社会環境に関わらず、すべての子どもに、むし歯予防対策を講ずることができる「フッ化物集団洗口」の普及啓発を図る</p> <p>◇子どもや家庭だけでなく、保育所・幼稚園・認定こども園、学校や学校医、学校歯科医、学校薬剤師、地域保健関係者等が課題を共有し、むし歯予防の環境整備を推進する</p>	<p>◇フッ化物歯面塗布助成事業登録歯科医療機関の拡大と研修体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> かかりつけ歯科医で継続予防管理を受ける必要性等の保健指導 フィッシャーシーラント（予防充填）を実施する医療機関の増加 フッ化物配合歯磨剤の年齢に応じた適切な使用方法の保健指導（4学会合同のフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法：2023年1月） 間食（内容、頻度、間隔）指導 離乳の準備や離乳完了時期等の保健指導 口腔機能の育成支援 <p>◇「☆せんだい☆でんたるノートF」を用いた保健指導の強化（R6年度より）</p> <p>◇フッ化物洗口導入支援事業の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間保育園長会、認定こども園施設長会、私立幼稚園連合会総会等での啓発 保育所、幼稚園等歯科健康診査結果集約事業等を通じた対象施設への働きかけ 歯科健診時を利用した嘱託歯科医から未実施施設への働きかけ 保育所、幼稚園等歯科健康診査結果集約事業のフィードバック <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>歯と口の健康づくりマニュアルⅦフッ化物洗口マニュアル フッ化物洗口実施計画、感染症に気をつけながらフッ化物洗口を行うための留意点 等の活用</p> </div> <p>◇フッ化物洗口パイロット事業の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者や学校保健関係者、地域保健関係者等への事業周知や実績の共有
3歳児	3.0%																									
5歳児	9.1%																									
12歳	11.2%																									
20歳	33.7%																									
30歳	42.7%																									
市立保育所, 市立幼稚園	100%																									
私立保育所	55.6%																									
認定こども園	65.0%																									
私立幼稚園	27.7%																									
	97.6%																									
フッ化物洗口パイロット事業	2校																									
私立小学校	1校																									
<p style="text-align: center;">指標（再掲）</p> <table border="1"> <tr> <td>保育所・幼稚園・認定こども園でフッ化物洗口に取り組んでいる施設の増加</td> <td>57.2%</td> <td>→</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>フッ化物洗口に取り組んでいる学校の増加</td> <td>3校</td> <td>→</td> <td>増加</td> </tr> </table>		保育所・幼稚園・認定こども園でフッ化物洗口に取り組んでいる施設の増加	57.2%	→	70%	フッ化物洗口に取り組んでいる学校の増加	3校	→	増加	<p style="text-align: center;">現況値（R4年度） → 目標値（R14年度）</p>	<p>市民のめざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯を通じてフッ化物を利用した歯みがきを行う 保育所、幼稚園、認定こども園、学校等でフッ化物洗口に取り組む かかりつけ歯科医で定期的にフッ化物歯面塗布やフィッシャーシーラント等の予防処置を受ける 甘味飲料や甘味食品の飲食の習慣化による影響を理解している 															
保育所・幼稚園・認定こども園でフッ化物洗口に取り組んでいる施設の増加	57.2%	→	70%																							
フッ化物洗口に取り組んでいる学校の増加	3校	→	増加																							

2. 多様な担い手の連携による歯と口の健康づくりを支える社会環境整備

かかりつけ歯科医機能を推進する環境整備

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ																														
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度																								
<p>◇定期健診や予防処置を受けている「かかりつけ歯科医がいる人」は幼児期が最も高く、20～30歳の青年期が低率であった</p> <ul style="list-style-type: none"> ●かかりつけ歯科医がいる人 <table border="1"> <tr> <td>妊婦</td> <td>47.3%</td> <td>3歳児</td> <td>72.3%</td> </tr> <tr> <td>20歳</td> <td>35.2%</td> <td>30歳</td> <td>36.9%</td> </tr> <tr> <td>40歳</td> <td>40.3%</td> <td>50歳</td> <td>43.2%</td> </tr> <tr> <td>60歳</td> <td>51.1%</td> <td>70歳</td> <td>58.2%</td> </tr> </table> <p>◇「かかりつけ歯科医がいる」と回答しても実際に予防行動に繋がっている人とは乖離がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フッ化物歯面塗布を受けている3歳児 65.1% ●デンタルフロスを使用している人 <table border="1"> <tr> <td>20歳</td> <td>21.2%</td> <td>30歳</td> <td>22.5%</td> </tr> <tr> <td>40歳</td> <td>32.9%</td> <td>50歳</td> <td>34.6%</td> </tr> <tr> <td>60歳</td> <td>46.6%</td> <td>70歳</td> <td>54.0%</td> </tr> </table> <p>R4 3歳児健康診査 R4 20歳のデンタルケア R4 歯周病検診</p>	妊婦	47.3%	3歳児	72.3%	20歳	35.2%	30歳	36.9%	40歳	40.3%	50歳	43.2%	60歳	51.1%	70歳	58.2%	20歳	21.2%	30歳	22.5%	40歳	32.9%	50歳	34.6%	60歳	46.6%	70歳	54.0%	<p>◇「かかりつけ歯科医をもつことの意味」に関する情報を広く市民に発信するとともに、地域の歯科医院との連携の強化を図る</p> <p>◇「かかりつけ歯科医」が担う役割を地域の歯科医院と共有し、関係主体との連携のもと、研修体制の充実を図る</p>	<p>生涯を通じてかかりつけ歯科医をもつことへの保健指導や啓発の場の拡充</p> <p>◇各種健診事業を通じて「かかりつけ歯科医の有無」等を把握し、定期的な健康チェックや予防処置の受診勧奨の強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●妊婦歯科健康診査 ●幼児健康診査(1歳6か月児, 2歳6か月児, 3歳児) ●20歳のデンタルケア ●歯周病検診 ●障害児施設歯科保健事業 <p>◇市民向け啓発媒体</p> <ul style="list-style-type: none"> ●妊婦歯科健康診査「母親と子どものこれからの歯と口の健康づくりのために」(R7改訂) ●幼児健康診査(1歳6か月児, 2歳6か月児, 3歳児)(毎年更新) ●歯周病検診「いつもさわやかなお口のために」(R7改訂) <p>すべてのライフステージに応じて継続管理や重症化予防につとめる「かかりつけ歯科医機能」の強化</p> <p>◇歯科医師会・歯科衛生士会・医師会・東北大学大学院歯学研究科等が連携した研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●口腔機能の育成支援セミナー(R8以降「(仮)子どもの食べる力のサポートブック」の共有) ●妊婦歯科健康診査及び成人歯科健康診査(20歳のデンタルケア, 歯周病検診)の判定基準改訂に伴うセミナー(R8以降) ●ハロープロジェクト推進歯科医療機関セミナー(R7年以降活動実績報告と受け皿づくり) ●オーラルフレイルのリスクチェックとサポートセミナー(基礎健康診査・特定健康診査のフォロー体制づくり) <p>「かかりつけ歯科医」の役割について啓発の強化</p> <p>New! ◇「(仮)かかりつけ歯科医のお仕事」啓発ポスターの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域を支える歯科保健医療の担い手である「かかりつけ歯科医の幅広い役割」や登録医療機関の情報を掲載し、歯科医療機関や市民が認識する機会とする ●掲示場所: 歯科医療機関, 薬局, 医科(小児科, 産婦人科), 保健福祉センターなど 		
妊婦	47.3%	3歳児	72.3%																													
20歳	35.2%	30歳	36.9%																													
40歳	40.3%	50歳	43.2%																													
60歳	51.1%	70歳	58.2%																													
20歳	21.2%	30歳	22.5%																													
40歳	32.9%	50歳	34.6%																													
60歳	46.6%	70歳	54.0%																													
<p>◇地域歯科保健や多職種連携に参画する歯科医療機関の増加を図る必要がある</p> <p>【市内歯科医療機関 605件】</p> <table border="1"> <tr> <td>妊婦歯科健康診査医療機関</td> <td>396件</td> </tr> <tr> <td>フッ化物歯面塗布助成事業</td> <td>331件</td> </tr> <tr> <td>20歳のデンタルケア</td> <td>431件</td> </tr> <tr> <td>歯周病検診</td> <td>431件</td> </tr> <tr> <td>認知症対応力研修受講</td> <td>111件</td> </tr> <tr> <td>障害者相談医</td> <td>96件</td> </tr> <tr> <td>糖尿病協会登録歯科医</td> <td>15件</td> </tr> </table> <p>R5 健康政策課調べ</p>	妊婦歯科健康診査医療機関	396件	フッ化物歯面塗布助成事業	331件	20歳のデンタルケア	431件	歯周病検診	431件	認知症対応力研修受講	111件	障害者相談医	96件	糖尿病協会登録歯科医	15件	<p>指標(再掲)</p> <table border="1"> <tr> <td>かかりつけ歯科医をもっている妊婦の増加</td> <td>47.3%</td> <td>→</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>20歳で未処置歯がある人の減少</td> <td>33.7%</td> <td>→</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>20～30歳代で歯肉に炎症所見がある人の減少</td> <td>38.3%</td> <td>→</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>過去1年間に歯科健診を受診した人の増加</td> <td>60.9%</td> <td>→</td> <td>95%</td> </tr> </table>	かかりつけ歯科医をもっている妊婦の増加	47.3%	→	80%	20歳で未処置歯がある人の減少	33.7%	→	20%	20～30歳代で歯肉に炎症所見がある人の減少	38.3%	→	15%	過去1年間に歯科健診を受診した人の増加	60.9%	→	95%	<p>めざす環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民のライフステージや疾患、障害、発達に応じた必要な歯科保健医療の提供や支援を切れ目なく受けとることができる体制が確保されている
妊婦歯科健康診査医療機関	396件																															
フッ化物歯面塗布助成事業	331件																															
20歳のデンタルケア	431件																															
歯周病検診	431件																															
認知症対応力研修受講	111件																															
障害者相談医	96件																															
糖尿病協会登録歯科医	15件																															
かかりつけ歯科医をもっている妊婦の増加	47.3%	→	80%																													
20歳で未処置歯がある人の減少	33.7%	→	20%																													
20～30歳代で歯肉に炎症所見がある人の減少	38.3%	→	15%																													
過去1年間に歯科健診を受診した人の増加	60.9%	→	95%																													



2. 多様な担い手の連携による歯と口の健康づくりを支える社会環境整備

医科歯科を軸に多職種連携を推進する環境整備

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ																								
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度																		
<p>◇妊婦歯科健康診査の受診率は4割程度にとどまっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊婦歯科健康診査受診率 46.6% <p>◇妊娠中に増加傾向にある歯科疾患の発症予防や重症化予防対策の強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 進行した歯周炎のある人 58.4% 未処置のむし歯を有している人 39.7% <p>R4 妊婦歯科健康診査</p> <p>◇乳歯の生え始めから適切なケアを受ける幼児の増加を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> フッ化物歯面塗布助成事業を受診する乳幼児 41.4% <p>R4 フッ化物歯面塗布助成事業</p> <p>◇全身疾患と歯周病の関係性を知る人は低率で、市民の知識や関心は高いとは言えない</p> <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病の合併症として「歯周病」を挙げた人 24.1% 喫煙の健康影響として「歯周病」を挙げた人 30.4% <p>R3 仙台市民の健康意識等に関わる調査</p>	<p>◇多職種連携のもと「妊娠と歯周病」等の情報提供の推進を図る</p> <p>◇多職種連携のもと「乳歯の萌出期からのむし歯予防対策」や「口腔機能育成の支援」を推進する</p> <p>◇医科歯科連携や職域連携のもと「歯科疾患と全身の健康」に係る情報や、「甘味飲料の習慣的な摂取による影響」の啓発を強化</p> <p>◇医科歯科連携のもとでの「フレイル予防」や「口腔機能の維持向上」「周術期の口腔ケア」等に関する取り組みを支援</p>	<p>ライフステージの特徴や生活習慣病等の疾患の特性を理解するための研修会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 成人歯科健康診査（妊婦歯科健康診査、20歳のデンタルケア、歯周病検診）の登録医療機関を対象とする説明会での生活習慣病重症化予防に係る研修を実施 産婦人科と歯科の連携による「妊娠と歯周病の関係」「妊婦歯科健診受診勧奨」に取り組む医療機関の増加を図る 小児科と歯科の連携による「乳幼児期からの口腔機能の育成や獲得」に関する啓発に取り組む医療機関の増加を図る（R8以降「(仮) こどもの食べる力のサポートブック」の共有） 医科歯科薬科の連携による「生活習慣病と歯科疾患」や「在宅介護が必要な方の口腔ケア」等に関する啓発や実践支援に取り組む医療機関の増加を図る <p>母子保健対策、生活習慣病予防対策、職域保健、介護予防対策と連携した啓発や健康教育の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 「妊娠と歯周病」に関する啓発媒体を作成し、産婦人科からの歯科への受診勧奨 小児科医による「☆せんだい☆でんたるノートF」を用いた保健指導の実施 「糖尿病による合併症」や「喫煙が及ぼす健康への影響」に関する医科薬科からの周知 基礎健康診査や特定健康診査の問診「食事を噛んで食べる時の状態」に応じた事後指導の充実 フレイルとオーラルフレイルについての理解を深めるための健康教育や保健指導の強化 介護予防の取り組みを行う事業所等を対象とした歯科健診受診のメリット等の啓発強化 「周術期の口腔ケア」に関する啓発強化 																								
		<p>指標（再掲）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現況値 (R3・4年度)</th> <th>→</th> <th>目標値 (R14年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かかりつけ歯科医をもっている妊婦の増加</td> <td>47.3%</td> <td>→</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>3歳児で4本以上のむし歯のある幼児の減少</td> <td>3.0%</td> <td>→</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>むし歯のない幼児の増加 (3歳児・5歳児)</td> <td>3歳児 90.4% 5歳児 78.2%</td> <td>→</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>50歳以上の咀嚼良好者の増加</td> <td>70.2%</td> <td>→</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>			現況値 (R3・4年度)	→	目標値 (R14年度)	かかりつけ歯科医をもっている妊婦の増加	47.3%	→	80%	3歳児で4本以上のむし歯のある幼児の減少	3.0%	→	0%	むし歯のない幼児の増加 (3歳児・5歳児)	3歳児 90.4% 5歳児 78.2%	→	95%	50歳以上の咀嚼良好者の増加	70.2%	→	80%	<p>めざす環境</p> <ul style="list-style-type: none"> あらゆる世代を通じて、よく噛んでたべることの支援や口腔機能の育成、獲得、維持、向上に係る取り組みを支援する体制が確保される PHR (Personal Health Record) を活用した市民への歯と口の健康づくりを支援する体制ができている 		
	現況値 (R3・4年度)	→	目標値 (R14年度)																							
かかりつけ歯科医をもっている妊婦の増加	47.3%	→	80%																							
3歳児で4本以上のむし歯のある幼児の減少	3.0%	→	0%																							
むし歯のない幼児の増加 (3歳児・5歳児)	3歳児 90.4% 5歳児 78.2%	→	95%																							
50歳以上の咀嚼良好者の増加	70.2%	→	80%																							

2. 多様な担い手の連携による歯と口の健康づくりを支える社会環境整備

配慮を必要とする人を地域連携で支える環境整備

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ																		
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度												
		<div style="border: 2px solid purple; padding: 10px; display: inline-block; background-color: #e0e0e0;"> 配慮を必要としている人を支える 歯科保健医療体制を整えるための取り組み </div>																		
<p>◇児童発達支援センター（障害児通園施設）の通園児で「かかりつけ歯科医」がある人は6割強で、幼児健康診査における同調査結果より高い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●かかりつけ歯科医がある幼児 1歳～2歳児 64.8% <small>R4 児童発達支援センターにおける 歯科保健行動調査</small> ●かかりつけ歯科医がある1歳6か月児 54.9% <small>R3 1歳6か月児健康診査</small> <p>◇在宅歯科診療事業の年齢別患者状況では、高齢者が9割を占める</p> <table border="1"> <tr><td>65歳以上</td><td>90%</td></tr> <tr><td>40～64歳</td><td>9%</td></tr> <tr><td>20～30歳</td><td>1%</td></tr> <tr><td>0～19歳</td><td>0%</td></tr> </table> <p>◇本市における医療的ケア児（者） 約350人 <small>R4 宮城県医療的ケア児者実態調査</small></p> <p>◇医療的ケア児（者）の在宅歯科診療について</p> <table border="1"> <tr><td>受け入れている</td><td>14.1%</td></tr> <tr><td>受け入れ体制はあるが対象者がいない</td><td>23.4%</td></tr> <tr><td>受け入れる予定がある</td><td>7.8%</td></tr> <tr><td>受け入れは考えていない</td><td>54.7%</td></tr> </table> <p><small>R5 在宅医療に関するアンケート</small></p>	65歳以上	90%	40～64歳	9%	20～30歳	1%	0～19歳	0%	受け入れている	14.1%	受け入れ体制はあるが対象者がいない	23.4%	受け入れる予定がある	7.8%	受け入れは考えていない	54.7%	<p>◇誰も取り残さない歯と口の健康づくりを目指し、実効性のある取り組みを推進するため医療・保健・福祉等による多職種連携体制の強化を図る</p> <p>◇必要な医療の提供とともに、定期健診や口腔ケア、予防処置を実施する医療機関の増加を図る</p> <p>◇高齢者のみならず、在宅小児に対応できる人材の育成や受け皿の整備を図る</p>	<p>◇担い手の育成が進む環境整備（医療・保健・福祉との連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設や病院などから地域へ生活移行した医療的ケア児（者）等の状況や訪問歯科診療（継続的な口腔健康管理と家族への支援）の先進例等の研修を実施 ●歯科医師会、歯科衛生士会と連携し、ケアマネジャーや介護職を対象に口腔ケアや周術期口腔機能管理に関する意識や知識の向上を図るための研修を実施 ●保護者や施設職員への健康教育・保健指導の充実 ●認知症対応力向上研修会の開催 ●在宅介護をしている家族や介護職向け「口腔ケアに関する啓発媒体」の作成 ●情報連携シートの導入等による医療介護の情報共有円滑化への支援 ●地域包括ケア連絡会議等への各主体の参画 	<p style="text-align: center;">指 標</p> <p>在宅介護が必要な方に歯科保健医療を提供する歯科医院の増加</p> <p style="text-align: center;">22.0% → 50%</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>過去1年間に歯科健診を受診した人の増加（再掲）</p> <p style="text-align: center;">60.9% → 95%</p>	<p style="text-align: center;">市民の めざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障害がある方も身近な地域の医療機関で歯と口の健康について相談できる ●通院が困難な方が、在宅で必要な医療とともに定期健診や口腔ケアを受ける <p style="text-align: center;">めざす 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ●だれもが住み慣れた地域などで安心して暮らし続けることができるよう、必要とする人が在宅歯科保健医療を受けられる体制が確保されている ●子どもの疾患・障害・発達に応じた必要な歯科保健医療の支援を受けられる体制が確保されている
65歳以上	90%																			
40～64歳	9%																			
20～30歳	1%																			
0～19歳	0%																			
受け入れている	14.1%																			
受け入れ体制はあるが対象者がいない	23.4%																			
受け入れる予定がある	7.8%																			
受け入れは考えていない	54.7%																			

3. 歯と口の健康づくりに係る情報管理体制の整備とネットワークの強化

適切な歯科保健情報にアクセスできる体制の構築

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ																																
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度																										
<p>◇市民の歯と口の健康に対する関心、価値観は低率である</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙台市の12歳児のむし歯数は、全国値を上回る状況であることを知っていますか <table border="1"> <tr><td>知っている</td><td>14.7%</td></tr> <tr><td>知らない</td><td>84.9%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>0.4%</td></tr> </table> 禁煙により歯周病が改善することを知っていますか <table border="1"> <tr><td>はい</td><td>59.4%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>20.5%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>19.5%</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>0.6%</td></tr> </table> R3 学校歯科関連調査(小3保護者調査) <p>◇市民の知りたい情報と情報提供の内容に乖離がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学生、専門学生の「お口の健康」について知りたい情報 <table border="1"> <tr><td>ホワイトニング</td><td>54.6%</td></tr> <tr><td>歯並び・見た目</td><td>35.1%</td></tr> <tr><td>口臭</td><td>31.4%</td></tr> <tr><td>歯ブラシの選び方</td><td>25.3%</td></tr> <tr><td>むし歯</td><td>19.7%</td></tr> <tr><td>歯周病</td><td>9.6%</td></tr> </table> R5 みなさんのオーラルケアに関するアンケート 	知っている	14.7%	知らない	84.9%	わからない	0.4%	はい	59.4%	いいえ	20.5%	わからない	19.5%	無回答	0.6%	ホワイトニング	54.6%	歯並び・見た目	35.1%	口臭	31.4%	歯ブラシの選び方	25.3%	むし歯	19.7%	歯周病	9.6%	<p>◇科学的根拠に基づいた情報の提供と、必要とする市民すべてに活用しやすい形で情報を届けることができる体制整備を推進</p> <p>◇対象者を明確に定めた啓発戦略を検討し、実施後の効果を評価する等PDCAサイクルを実施しながら、内容のブラッシュアップを図る</p> <p>◇情報発信の手法は単発ではなく、様々な機会を捉えてわかりやすく伝える</p>	<p>既存事業における啓発の充実強化と関係者対象の研修会や推進会議を通じた情報提供</p> <p>◇市民向け啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯と口の健康週間行事 ●健康増進普及月間 ●歯と口腔の健康づくり月間 ●介護予防月間 地区まつり ●PTAフェスティバル ●健康づくりイベント ●関係主体ホームページ 市ホームページ「せんだい・歯と口の健康づくりネット」 ●健康情報掲載特設サイト 歯と口の健康週間市民のつどいWEB版(仙台歯科医師会ホームページ) <p>◇関係者対象の研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育士研修会 ●養護教諭研修会 ●学校歯科医生涯研修制度基礎研修会 ●歯科衛生士研修会 認知症対応力研修会 ●(仮称)口腔機能の育成獲得、維持向上支援研修会 妊婦歯科健康診査事業説明会 ●成人歯科健康診査(20歳のデンタルケア、歯周病検診)事業説明会 <p>◇関係主体主催の会議等</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立保育所長会 ●民間保育園長会 ●認定こども園施設長会 ●私立幼稚園連合会総会 <p>◇関係主体が参加する推進会議等</p> <ul style="list-style-type: none"> 各区保健福祉センターにおける幼児健診懇談会(小児科医、歯科医師) 社会福祉協議会(児童委員・民生委員) 学校保健委員会(学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保健福祉センター等) 歯と口の健康週間市民のつどい実行委員会(歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、歯科衛生士会、大学等) せんだい健康づくり推進会議(医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、産業保健総合支援センター、大学等) 食育推進会議(医師会、歯科医師会、栄養士会、保育所連合会、幼稚園連合会、PTA協議会、大学等) 地域医療対策協議会歯科保健医療部会(歯科医師会、栄養士会、歯科衛生士会、居宅介護支援施設代表、大学等) 地域保健、保健所運営協議会(医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、学校長、看護協会、労働局、大学等) 歯と口の健康づくりネットワーク会議(医師会、歯科医師会、薬剤師会、歯科衛生士会、産業保健総合支援センター、幼稚園連合会、保育所連合会、PTA協議会、大学等) 						
知っている	14.7%																																	
知らない	84.9%																																	
わからない	0.4%																																	
はい	59.4%																																	
いいえ	20.5%																																	
わからない	19.5%																																	
無回答	0.6%																																	
ホワイトニング	54.6%																																	
歯並び・見た目	35.1%																																	
口臭	31.4%																																	
歯ブラシの選び方	25.3%																																	
むし歯	19.7%																																	
歯周病	9.6%																																	
<p>指標(再掲)</p> <p>CO, GOのある児童生徒へ保健指導、健康教育を実施する学校の増加</p>		<p>現況値(R3年度) → 目標値(R14年度)</p> <p>小学校 22.9% → 100%</p> <p>中学校 34.9% → 100%</p>		<p>自分自身の歯科健診情報を健康づくりに活用できる体制の構築を推進</p> <p>New!</p> <p>◇生涯にわたる健康管理のためのPHR(Personal Health Record)やマイナポータル等の活用等</p>				<p>市民のめざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての人が正しい歯科保健情報を十分に収集し、活用できる 自分自身の歯科健診結果を健康づくりに活用する 市民一人ひとりが正しい知識を持ち、健康的な生活習慣や歯科保健行動を身につける 																										



3. 歯と口の健康づくりに係る情報管理体制の整備とネットワークの強化

大規模災害時における歯科保健提供体制の構築

現状と課題	取り組みの方向性	ロードマップ						
		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	各種調査 R11年度	中間評価 R12年度
<p>◇被災者の健康支援は、緊急性が高い救護活動や歯科医療の提供にとどまらず、災害フェーズに応じた、避難所・仮設住宅等における口腔健康管理の充実により、誤嚥性肺炎等の震災関連死の防止を図る必要がある</p> <p>◇震災の影響による市民の生活習慣や食生活、保健行動等の変化、医療の中断による口腔の健康格差の拡大を阻止し、歯科疾患の発症予防や重症化予防に取り組む必要がある</p> <p>◇東日本大震災の経験を踏まえた「仙台市災害時保健活動マニュアル」や「災害時の医療救護活動に関する協定」をもとに災害時を想定した研修や訓練を実施する必要がある</p> <p>◇職員や関係団体の被災者支援活動に加え、他自治体応援職員や災害ボランティアによる活動が効果的に展開できるよう協力・連携した取り組みが必要である</p>	<p>◇大規模災害発生時にも被災者の健康支援ができるよう、十分な備えについて啓発を図る</p> <p>◇健康支援にあたっては、医療救護班や保健師等の他職種との連携が不可欠であるため、役割や支援の在り方等を平時より共有して、訓練等を実施しておく必要がある</p>	<p>災害時における口腔ケアの重要性やオーラルケア用品等の「日常備蓄」の啓発</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>◇市民向け啓発媒体等を通じた「防災とオーラルケア」の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育てサポートブック「たのしねっと」 ●☆せんだい☆でんたるノートF (R6年度より毎年ブラッシュアップ) </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>◇「(仮称)防災とオーラルケア」リーフレット作成 ～東日本大震災から15年～ 震災時の歯と口の健康は身体にも影響します</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害時のオーラルケアの重要性や方法について ●日頃からの備え(ハード面、ソフト面) </div> </div> <p>関連計画、協定、マニュアルに基づく役割分担の明確化、連携体制の強化</p> <p>◇危機管理や医療政策等関係部局と連携し、各種計画等に基づく訓練等を通じて災害時対応力を強化</p> <p>①仙台市地域防災計画(令和5年9月) 災害時医療救護活動を迅速、的確に行うための医療機関や医師会、歯科医師会、薬剤師会をはじめとした関係団体との連携や、連絡調整の窓口となる災害時医療連絡調整本部の設置、救護所の整備、医薬品の備蓄、後方医療施設の確保や連携体制の整備について定めている</p> <p>②歯科医師会との「災害時の医療救護活動に関する協定」(平成26年4月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯科医療を要する傷病者への応急処置及び歯科治療 ●傷病者の後方医療機関への転送の要否及び転送順位の決定 ●検視及び検案に際しての法歯学上の協力 ●被災者に対する歯科保健活動 <p>③仙台市災害時保健活動実務マニュアル(平成27年1月改訂) 大規模災害時に担うこととなる「保健活動」の手順書として、被災直後の救護活動にとどまらず、避難所における予防活動、復興に向けたコミュニティづくり等、各フェーズにおける保健活動の在り方を「公衆衛生看護、栄養改善、歯科保健活動」の視点で示している</p>						
								

指標(再掲)

現況値(R4年度) → 目標値(R14年度)

むし歯のない幼児の増加(3歳児・5歳児)	3歳児 90.4% → 95%
	5歳児 78.2% → 95%
12歳児でむし歯のない生徒の増加	75.8% → 95%
40歳で歯周炎のある人の減少	55.3% → 36%

市民のめざす姿

- ・大規模災害時においても歯みがき、義歯洗浄など口腔ケアが重要であることを理解しセルフケアに取り組む
- ・災害時の備えとして、歯ブラシや液体はみがき等の口腔ケア用品を準備している

めざす環境

- ・災害フェーズごとのニーズを想定し、被災者の救護や保健医療の提供が継続できるよう、関係機関の迅速かつ円滑な情報共有と連携体制が構築できている
- ・災害発生時に速やかな対応が可能となるよう、実践的な訓練を通じた備えが十分にできている

4. 指標一覧

歯と口の健康づくりの推進に向け、目標を掲げ成果や達成度を定量的に把握することにより、効果的で実効性のある施策に取り組みます。

本計画では、ライフステージごとに18項目の目標値を設定します。関係主体との連携のもと、ライフコースアプローチによる歯と口の健康づくり推進に取り組みます。

区分	具体的指標	指標設定の趣旨	解説	現況値 (R3.4年度)	目標値 (R14年度)	データソース
妊娠期	かかりつけ歯科医を持っている妊婦の増加	妊娠に伴う生活習慣や生理的な変化により、リスクが高まる歯科疾患の予防を強化する。併せて、家族全員が、かかりつけ歯科医を持つことへの波及効果を期待し、指標として設定しました	妊婦歯科健康診査において、問診「定期健診や歯石除去をしてくれる『かかりつけ歯科医』がある」と回答した妊婦の割合	47.3%	80%	妊婦歯科健康診査
乳幼児期	3歳児で4本以上のむし歯のある幼児の減少	多数のむし歯を有する幼児が一定数存在する。多職種連携のもと、乳幼児期の健康格差の解消を図るため、指標として設定しました	3歳児健康診査における、むし歯の本数が4本以上ある幼児の割合	3.0%	0%	3歳児健康診査
	むし歯のない幼児の増加（3歳児・5歳児）	生涯にわたる歯と口の健康づくりの基盤が形成される乳幼児期に、むし歯予防対策を強化することは、口の機能の健全な育成にもつながることから、指標として設定しました	3歳児健康診査における、むし歯がない幼児の割合 保育所・幼稚園等歯科健康診査結果集約事業における、むし歯がない5歳児の割合	90.4% 78.2%	95%	3歳児健康診査 保育所・幼稚園等歯科健康診査結果集約事業
	保育所・幼稚園・認定こども園でフッ化物洗口に取り組む施設の増加	幼児期から学齢期において継続して、保育所・幼稚園や学校等でフッ化物洗口を推進している地域は、むし歯有病状況は低い水準にあり、個人格差の縮小も図れている。また、その予防効果は成人しても続くことから、指標として設定しました	保育所・幼稚園・認定こども園において、フッ化物洗口を実施している施設の割合	57.2%	70%	保育所・幼稚園等歯科健康診査結果集約事業
学齢期	フッ化物洗口に取り組んでいる学校の増加		フッ化物洗口を実施している学校の数（フッ化物洗口パイロット事業参加校及び私立小学校）	3校	増加	健康政策課調べ
	12歳児でむし歯のない生徒の増加	12歳児の約4人に1人がむし歯に罹患しており、学齢期の有病者率は未だ高く、地域差もあることから、地域全体で取り組みを推進する必要があるため、指標として設定しました	学校定期健康診断における、むし歯がない12歳児（中学1年生）の割合	75.8%	95%	学校保健統計調査
	12歳児で歯肉炎のある生徒の減少	学齢期の早い段階から、適切なセルフケアの実践を支援し、歯周病予防対策を推進するため、指標として設定しました	学校定期健康診断において、G（歯肉炎などの歯周疾患にかかっている者）と判定された12歳児（中学1年生）の割合	6.4%	3%	学校保健統計調査
	CO・GOのある児童生徒へ保健指導、健康教育を実施する学校の増加	CO・GOは学校での保健指導等により、生活習慣等の改善をめざす診断基準であることから、指標として設定しました	学校定期健康診断において、CO（要観察歯）・GO（歯周疾患要観察者）と判定された児童生徒へ保健指導や健康教育をする小学校、中学校の割合	小学校 22.9% 中学校 34.9%	100% 100%	学校歯科保健関連調査

区分	具体的指標	指標設定の趣旨	解説	現況値 (R3-5年度)	目標値 (R14年度)	データソース
青年期	20歳で未処置歯がある人の減少	高校卒業後、定期歯科健診を受診する機会が減少し、更に進学、就職、結婚などライフスタイルに変化がみられ、歯や口への関心が低くなる傾向にある時期に、適切なセルフケアやかかりつけ歯科医での予防処置を受けることの定着を図ることから、指標として設定しました	20歳のデンタルケアにおいて、「未処置歯がある」と判定された人の割合	33.7%	20%	20歳のデンタルケア
	20～30歳代で歯肉に炎症所見がある人の減少	歯や口への関心が低くなる傾向にある時期に、適切なセルフケアやかかりつけ歯科医での予防処置を受けることの定着を図ることから、指標として設定しました	市民健康意識調査において、「歯ぐきが腫れている」「歯をみがいた時に血が出る」いずれかに該当すると回答した人の割合	38.3%	15%	仙台市民の健康意識等に関する調査
	過去1年間に歯科健診を受診した人の増加	歯科疾患予防や重症化予防を図り、口腔機能を維持する観点から、生涯を通じて歯科健診を受診し、結果に応じた個別保健指導を受ける人の増加を図るため、指標として設定しました	市民健康意識調査において、「過去1年間に歯科健診を受診した」と回答した20歳以上の人の割合	60.9%	95%	仙台市民の健康意識等に関する調査
	40歳で歯周炎のある人の減少	歯周病は歯の喪失をもたらす主要な原因であり、糖尿病等の全身疾患との関連性も指摘されていることから、その予防は全身疾患の重症化リスクの軽減も期待できるため、指標として設定しました	歯周病検診（40歳）において、歯周ポケットが4mm以上ある人の割合	55.3%	36%	歯周病検診（40歳）
壮年期	40歳以上で自分の歯が19本以下の人の減少	歯の喪失は食生活や対人面など多面的に影響を及ぼし、QOLの低下につながります。壮年期以降はむし歯や歯周病等で、歯を失うリスクが年齢とともに増加することから、指標として設定しました	歯周病検診（40, 50, 60, 70歳）において、現在歯数が19本以下の人の割合	5.4%	3%	歯周病検診（40, 50, 60, 70歳）
	50歳以上の咀嚼良好者の増加	50歳以降は歯周病の重症化や現在歯数の減少等から、年齢とともに、咀嚼機能低下が顕著になります。口腔機能の維持・向上が全身の健康にも関連するため、指標として設定しました	市民健康意識調査において、「なんでも噛んで食べられる」と回答した50歳以上の人の割合	70.2%	80%	仙台市民の健康意識等に関する調査
	60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の増加	むし歯や歯周病の予防は、ライフステージに応じた取り組みに加え、ライフコースアプローチを適切に講じることで歯の喪失防止につながるため、80歳までの目標の中間指標として設定しました	歯周病検診（60歳）において、現在歯数が24本以上ある人の割合	88.8%	95%	歯周病検診（60歳）
高齢期	80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の増加	28本の歯の中で20本以上残っている人の咀嚼状況は良好であると言われていました。生涯を通じた歯科疾患予防を強化し、より多くの自分の歯がある高齢者の増加を図るため、指標として設定しました	8020達成率調査において、現在歯数が20本以上ある人の割合	69.3%	85%	8020達成率調査
	80歳での咀嚼良好者の増加	高齢期において、より多くの自分の歯を残し、口腔機能の維持・向上を図ることが健康寿命の延伸にもつながることから、指標として設定しました	8020達成率調査において、「なんでも噛んで食べられる」と回答した人の割合	—	70%	8020達成率調査
	在宅介護が必要な方に歯科保健医療を提供する歯科医院の増加	年齢を問わず、在宅介護が必要な方へ必要な歯科医療の提供とともに、口腔ケアや予防処置等の対応をする医療機関の増加等の環境整備が必要なことから、指標として設定しました	在宅医療に関するアンケート調査において、「在宅歯科診療を実施している」と回答した医療機関の割合	22.0%	50%	在宅医療に関するアンケート

1 各主体の取り組み

(1) 市民・家庭の取り組み

市民・家庭

- ・歯と口の健康づくりは、全身の健康づくりへとつながります。市民一人ひとりが正しい知識を身に付け、生涯にわたり適切なセルフケアを実践し、生活習慣の改善を図ることが大切です。加えて「かかりつけ歯科医」を持ち、定期健診や予防処置を受けることで、歯科疾患の発症予防や重症化予防・口腔機能の維持に取り組みます。また、家庭は個人にとって最も身近な生活環境で、家族がお互い良き理解者・支援者となり、歯と口の健康づくりに取り組むとともに、こどもに望ましい生活習慣を身につけさせる重要な役割を担っています。特に保護者は家族の中心であり、妊娠期から定期的に歯科健診を受ける保護者が増えれば、全世代に波及していく効果も期待できます。

(2) 市民を支える関係者の取り組み

かかりつけ歯科医

- ・かかりつけ歯科医（ホームドクター）として、妊娠期から高齢期までのライフコースに合わせた歯と口の健康をとともに考え、歯と口の健康づくり活動の取り組みを支援します。
- ・妊婦と生まれてくるこどもや家族の歯と口の健康づくりに関する知識の普及を図り、定期的な予防処置を受ける習慣の定着に努めます。
- ・ライフステージごとに実施される歯科健康診査の内容を充実し、多職種連携により保健指導の強化を図ります。
- ・乳児期からの口腔機能の育成と適切なセルフケアの実践を支援し、「かかりつけ歯科医」での定期的な健診と予防処置を受けることの啓発を図ります。
- ・フッ化物歯面塗布やフッ化物洗口、フッ化物配合歯磨剤の活用による科学的根拠に基づいたむし歯予防としてのフッ化物応用を推進し、個人間の健康格差を是正します。
- ・地域保健医療として学校保健活動の活性化を図り、心身ともに健康な児童・生徒の育成を目的とした学校歯科保健教育、保健指導及び保健管理の充実を図ります。
- ・ハローフロスプロジェクトや20歳のデンタルケア、「☆せんだい☆でんたるノートF」を活用した保健活動を通して、乳幼児から青年期の適切なセルフケアの実践支援を行います。
- ・歯周病と全身の健康の関連を周知するとともに、歯科健診受診に関する普及啓発を図ります。
- ・誰も取り残さない歯と口の健康の実現を目指し、実効性のある取り組みを推進するため、多職種連携体制の強化を図るとともに、地域包括ケアシステムの取り組みに参画します。

保育所・幼稚園・認定こども園

- ・保育所・幼稚園等歯科健康診査結果集約事業に参加し、保育所・幼稚園・認定こども園等における歯科保健活動の充実に努め、乳幼児期からの良好な歯科保健習慣の定着と健康観を育みます。
- ・永久歯萌出期に合わせてフッ化物洗口を実施し、むし歯の個人差や地域差の減少を図り、生涯を通じた歯と口の健康づくりにつなげます。

小学校・中学校・高等学校

- ・歯科健康診断を実施し、COやGO等の要指導の児童・生徒に対する歯科保健指導や歯科保健教育の充実を図ります。
- ・児童生徒、保護者に対し、フッ化物によるむし歯予防や歯肉炎予防に対する歯みがきやデンタルフロスの効果等、科学的に適切な歯科保健情報の伝達、教育を行います。
- ・学校保健委員会の活性化に努め、学校における歯科保健活動の充実に努めます。
- ・保育所・幼稚園、認定こども園、保健所等、地域との連携を深め、生涯を通じた歯と口の健康づくりに取り組みます。
- ・児童会、保健委員会等の活動を支援し、児童生徒の自主的活動を後押しします。

(2) 市民を支える関係者の取り組み

学校歯科医

- 学校安全保健計画、保健指導計画等の作成時に、歯と口の健康づくりに効果的な取り組みに関する助言や事業提案を行います。
- 歯科健康診断の実施と事後指導、健康相談を支援する他、学校保健委員会など、積極的に学校行事に参加し、教職員・児童生徒・保護者の歯科保健知識や技術の向上に努めます。
- 歯科健康診断後、CO・GOと診断された児童・生徒に対する適切な保健指導・健康相談・健康教育を行うことにより、子ども自らが気付くことで生活習慣を見直し、歯科疾患の進行を予防・抑制するための行動ができるよう学校での取り組みを支援します。
- 学校保健委員会に積極的に参画し、児童生徒の歯科保健状況を還元し、専門的立場からの助言指導を行います。
- 教職員や保護者に対し、講話等を通してフッ化物による歯と口の健康づくりの情報提供に努めます。

保険者・事業者

- 保険者や事業者は、加入者や従業員に対し、歯と口の健康づくりの大切さについて普及啓発を進めるとともに、健康の保持増進に努めます。

民生委員・児童委員

- 地域住民の一人員として、担当する区域での地域の方の生活上のさまざまな相談に応じる中で、歯と口の健康の大切さについても伝え、利用できる保健福祉サービスなどの情報提供や行政等の専門機関につなげます。

医師会・薬剤師会・栄養士会・看護・介護職関係団体等

- 市民向けのイベントや会員対象の研修会等において、歯や口の健康の重要性を普及啓発します。
- 健やかな口腔機能を育てる食事のメニューの普及を図ります。
- 歯や口の健康維持の方法や、地域子どもへのおやつレシピ等の知識を提供します。
- 教職員や保護者に対し、講話等を通してフッ化物による歯と口の健康づくりの情報提供に努めます。
- 周術期の口腔ケアについて理解を深め、かかりつけ歯科医との連携を図ります。

歯科医師会・歯科衛生士会・歯科技工士会

- 保育所・幼稚園・学校や地域の保健事業に積極的に参画し、歯科保健の普及に努めます。
- かかりつけ歯科医として、定期的に健診や予防処置を実施、口腔保健指導や食生活指導、生活習慣改善指導に努めるとともに、人材育成と資質の向上を図るため、生涯研修を進めていきます。

大学等の教育研究機関

- 歯科疾患の予防、歯と口の健康づくりを推進するための先端的研究、疫学調査、フィールドワークなどの学術的研究を行います。
- 関係主体の研修会など、必要な際に専門医や講師の派遣などを行い支援体制の整備に努めます。

仙台市

- 母子保健法、学校保健安全法、健康増進法、高齢者の医療の確保に関する法律等に基づく各種健康診査や健康診断、歯周病検診等を実施し市民の取り組みを支援するとともに、地域の実情に合わせた歯科健康教育、歯科相談等の歯科保健活動を展開します。
- 市民に対する歯科保健情報を発信し、その内容の充実を図ります。
- 地域全体で歯と口の健康づくりに取り組むために、各種健診等データを活用し、ライフコースにあわせて、各団体の活動を支援します。

2 計画の推進体制

計画を総合的に推進していくため、各施策の進捗状況や数値目標の達成状況を検証します。

市民一人ひとりの取り組みに加え、ネットワーク会議に参画する乳幼児から高齢者までの健康に関わる関係機関・団体等や市の関係各課が「円卓会議」の形態をとり、計画推進に向けてそれぞれの領域で役割を果たし、相互に連携・協力しながら積極的に計画を推進します。

計画の周知

- 本計画及びライフステージごとのアクションプランを市のホームページに掲載します
- 歯と口の健康週間行事「市民のつどい」や各区行事等の様々なイベントや会議等の機会を活用して、市民及び関係機関・団体に対しての普及を図ります

計画の進行管理

- 計画を総合的に推進するために「ネットワーク会議」及び専門部会を定期的に開催し、事業評価や推進方策の検討など進捗管理を進めます
- 「ネットワーク会議」の一層の充実・強化を図り、歯科保健推進体制整備を推進します

調査・研究・研修等の実施

- 計画の進捗管理のために、歯科保健に係わる調査を行い、情報を収集・集約し、市民や各主体に対して結果を提供します
- 様々なデータを必要としている関係主体に、迅速かつ確実に提供できる体制を整備します
- 各主体が効果的な事業展開を図れるように、最新の歯科保健にかかわる健康づくりの情報や有効な取り組み事例を把握し、情報提供します
- 健康寿命の延伸に向けた歯科口腔保健の推進を図るため、効果的かつ効率的な歯科疾患予防対策に関する国の動向や、全身と口腔状況の関連等の最新情報を収集し、地域や関係主体及び市民に情報提供するとともに、必要に応じて関係者の研修会を実施します

健康寿命の延伸

健康で質の高い生活を営む基盤となる 歯と口の健康の実現



仙台市歯と口の健康づくりネットワーク会議

(一社) 仙台市医師会, (一社) 仙台歯科医師会, (公社) 仙台市薬剤師会, (一社) 宮城県歯科衛生士会, 仙台市私立幼稚園連合会, 仙台市保育所連合会, 仙台市 PTA 協議会, 宮城産業保健総合支援センター, 東北大学大学院歯学研究科, 仙台市 (保健福祉センター, 教育局, こども若者局, 健康福祉局)





伊達家柏記念會協力

仙台市・歯と口の健康づくり計画 (第3期アクションプラン)

令和6年(2024年)3月

仙台市
歯と口の健康づくりネットワーク会議

発行：仙台市健康福祉局健康政策課
〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
TEL.022-214-3894
FAX.022-214-4446
Eメール：fuk005520@city.sendai.jp